

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立中井小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒988-0563
宮城県気仙沼市唐桑町中井134-3

E-mail : nakaisho@mediaweb.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 50 名 女子 42 名 合計 92 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。
 ※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

平成25年度 ESD/ユネスコスクール実践事例

学校名	気仙沼市立中井小学校	主なESD領域	地域、環境
テーマ	ふるさを見つめながら、未来に生きる子どもを育てる		
<p>1 ESDでめざすもの</p> <p>(1) ESDのねらい</p> <p>学年毎のテーマに基づき、生活科や総合的な学習の時間を活用して、地域住民や機関の支援を受けながらさまざまな体験活動を展開する。3学年以上においては「ふるさと学習会」を公民館との連携のもとに実施し、地域の豊かな自然や文化、産業等を実感的に理解し、ふるさとのよさを見つめ直す契機とする。</p> <p>(2) ESDで育てたい力（資質・能力及び態度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の豊かな自然や文化、産業等を実感的に理解することで、ふるさとのよさを見つめ直し、それを大切に受け継ごうとする思い。 ○ 地域の課題や未来について考え、自分にできることを実践しようとする態度。 <p>2 ESDのプログラム</p> <p>(1) 取組の概要</p> <p>生活科や総合的な学習の時間を活用して、地域の自然観察、野菜の栽培活動、こんにやく作り、アルミ缶回収等の体験活動を、地域の住民の支援を受けながら展開している。また、公民館との連携による「ふるさと学習会」では、各教科、総合的な学習の時間を活用し、唐桑の名所・旧跡の見学、魚市場見学、防災センター見学、海辺の生物観察、「森は海の恋人」運動に学ぶ活動、福祉施設訪問等を実践している。昨年度からは、海に関する活動の一部に替わり、社会科の学習と関連させた防災に関する学習を取り入れ、実践している。</p> <p>(2) ESDプログラム（実施）</p> <p>【1学年】「どきどき わくわく みつけよう！」</p> <p>草花の栽培や、自然素材を使った造形活動や遊びを通して、身近な自然に親しむ活動を行う。</p> <p>【2学年】「聞いて 聞かせて しんはっけん！」</p> <p>地域の自然観察や野菜の栽培活動を通して、身近な自然の豊かさを体験的に理解する。</p> <p>【3学年】「知りたいな ふるさとの自然」</p> <p>魚市場の見学や野菜の栽培活動を通して、身近な「食」について理解を深める。</p> <p>【4学年】「わくわく体験！ふるさとと伝統」</p> <p>地域の伝統について学んだり、昔ながらの遊びを調べたりする活動を通して、地域の人やもの、伝統文化や伝統芸能のよさについて感じ取る。</p> <p>【5学年】「見つめよう！私たちを取りまく世界」</p> <p>「森は海の恋人運動」の見学を通して、自然界の仕組みについて理解を深め、他教科と関連させながら自分たちが行うことができる自然環境保護の取組について考える活動を行う。さらに、地域の防災について考え、防災リーフレットを作成する。</p> <p>【6学年】「共に歩もう！未来に向けて 一地域と未来への貢献」</p> <p>福祉施設の訪問や地域住民にも協力を呼びかけたアルミ缶やプルタブ集めを年間を通して実践し、福祉施設に贈り物をするボランティア活動を行う。地域の史跡見学では、生まれ育った地域の歴史について学ぶ。</p>			

(3) 活動の評価の観点と方法

- ふるさとのよさや価値に気づき、それを大切に受け継ごうとする思い。
(作品, 記録, 自己評価)
- 地域の課題や未来について考え、自分にできることを実践しようとする態度。
(観察, 記録, 作品, 自己評価)

3 平成25年度のESDの実践

(1) 今年度の取組の変更や改善点

震災後は活動が一部制限されながらも、可能な活動を探りながら「ふるさと学習会」を実施した。また震災の教訓に基づき、防災に関する学習を新たに取り入れ、学校行事の避難訓練や社会科と関連づけながら実践してきた。しかし、震災の影響で制限された活動（水山養殖場見学・定置網起こし体験等）や、地域人材の高齢化によって継続が困難になった活動（伝統工芸品作り体験）もあったため、以下の活動内容について改善し、実践した。

- 地域人材の高齢化のため、活動の継続が困難になった4学年の「伝統工芸品作り体験（風車作り体験）」に代わり、地元の伝統芸能「松園虎舞」を体験する活動を取り入れ、新たに地元の伝統芸能に目を向けさせた。
- 6学年の地域の史跡見学は、昨年度までの場所の他に新たな見学場所を加え、さらなる活動の充実を図った。
- 地域人材の方々に、3学年の社会科と関連した野菜栽培にも協力をいただき、地域の方々とふれあいながら活動する場を広げた。

(2) 実践の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

新たに取り入れた地元の伝統芸能「松園虎舞」体験の活動は、単発の活動に終わらず、何度か保存会の方々から指導していただく機会を得ることができた。また、練習したことを地域の行事等において発表する場も設けられ、児童は意欲を持って取り組むことができた。

②児童生徒の変容（資質・能力・態度）の視点から

野菜の栽培活動や地域の自然に触れる活動を通して、地域の自然の豊かさや自然の恵みを実感することができた。また、地域の方々から野菜作りや伝統芸能、環境について学ぶことで、地域を誇りに思い、自分のその一員としてできることを実践しようとする態度が育ってきた。

③教師や保護者、地域住民の意識の変容の視点から

地域の方々との活動を進める中で、児童にとってより充実した活動ができるよう教師と地域の方々とアイデアを出し合うことができた。

(3) 次年度に向けた課題と展望

- 新しく取り入れた伝統芸能の体験活動は、児童が伝統文化を知るだけではなく、地域にとっても伝統文化の継承者を育てる上で大切な活動になる。今後も保存会と連携しながら、さらに活動の幅を広げたい。
- 公民館と連携しながら、ふるさと学習を継続するとともに、5学年の防災学習の内容を吟味していく必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
 時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（

）